

第 5 章

健康診断および保健指導における アルコール健康障害への早期介入に関する ガイドラインおよび好事例集

健康診断および保健指導におけるアルコール健康障害への早期介入に関するガイドライン

筑波大学医学医療系 地域総合診療医学 吉本尚

アルコール健康障害対策推進基本計画の第2期計画では、基本的施策の1つである「健康診断および保健指導」において、以下のような記載がなされている。

（現状等）

各地域でのアルコール依存症をはじめとするアルコール健康障害対策の充実に向けては、地域の実情に応じて、早期発見、早期介入から専門医療、自助グループへの参加等による回復支援に至る連携体制の整備が求められる。

その中で、アルコール健康障害の発生や進行を予防するためには、様々な機関における早期のスクリーニングとブリーフインターベンション（※）の取組の普及が重要であり、また、国内での関連の知見も蓄積しつつある。

※ 実在又は潜在的なアルコール問題を特定し、対象者の飲酒行動に変化をもたらすことを目的とした短時間のカウンセリングなど、個人がそれについて何か行動するように動機づける実践である。

地域の健康診断及び保健指導においては、保健所を中心とした先進的な取組が図られている自治体が見られるものの、全国的には取組が十分に進んでいない。

また、労働者から相談があった場合等に適切な機関につなぐことができるよう、産業保健スタッフ等に対して、アルコール健康障害に関する啓発を進めていくことが重要である。

（目 標）

地域及び職域におけるアルコール健康障害予防のための体制の整備、専門医療機関等との連携の強化を目標として、以下の施策を講じる。

本ガイドラインは、健康診断および保健指導の中で、高血圧や脂質異常症、耐糖能障害や肝機能障害などの背景にある過剰なアルコール摂取を「みつける（スクリーニング）」「かかわる（ブリーフインターベンション）」「つなぐ」ことで、アルコール健康障害や社会的影響の発生、医療費増加といった影響を抑え、労働安全や労働生産性を高めることを目的としている。

ガイドラインは今後の使い勝手を考え、本事業報告書の末尾に資料として示し、それぞれ単独で利用できるように工夫した。なお、本ガイドラインは、科学的知見の蓄積状況等を踏まえ、必要に応じて見直しを行う可能性がある。

職域におけるアルコール健康障害への早期介入 好事例集

菊地亜矢子、吉本 尚

●事例 1：新聞社特有の飲酒文化に向き合うきっかけとして AUDIT を開始

……調査協力者

朝日新聞東京本社 管理本部（労務部・健康管理） 産業医 伊東明雅先生
朝日新聞東京本社 管理本部（労務部） 柿本憲助さん
朝日新聞健康保険組合 健康相談室 保健師 西畠文江さん

●事例 2：健康経営®とコラボヘルス事業を基盤に関係者間連携でアルコール対策を推進

……調査協力者

小野薬品工業株式会社 人事管理部 健康推進課

●事例 3：健康管理室と多職種および専門医療機関との連携で取り組むアルコール対策

……調査協力者

KMバイオロジクス株式会社 本社健康管理室 産業医 毛井順子先生
保健師 宮田真理子さん

●事例 4：健康管理センターと健康保険組合が連携して従業員の健康管理

……調査協力者

ブラザー工業株式会社 健康管理センター 保健師 曾我紀子さん
ブラザー健康保険組合 保健推進センター 保健師 久米智美さん

事例 1

新聞社特有の飲酒文化に向き合う きっかけとしてAUDITを開始 (株式会社朝日新聞社)

【会社概要】

本社所在地：東京都中央区築地5-3-2

業種：情報通信業（新聞・デジタルメディアによるコンテンツ事業、イベント事業、不動産事業）

従業員数：3,939人（2023年4月現在）

朝日新聞社 産業医 11 名、

朝日新聞社健康保険組合 保健師 11 名



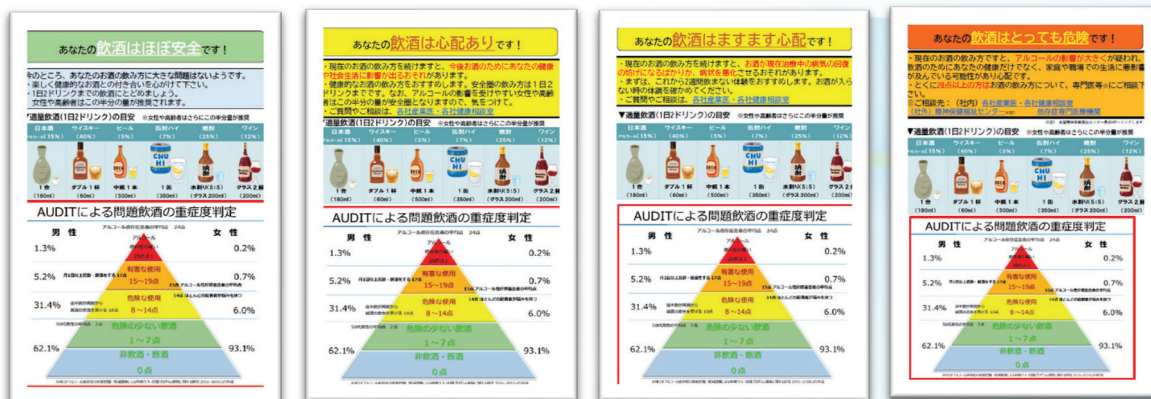
【要約】

朝日新聞社は、従業員がいきいきと元気に働き続けられるように、健康づくりを積極的に支援するとともに、生活習慣病等の疾病の発生予防に力を入れるなど、朝日新聞健康保険組合と連携して健康経営を実践している。健康経営に取り組み始めた2017年に「禁煙ポリシー2020」を策定し、禁煙対策に一定の効果を得たことから、2025年までにリスク飲酒率を半減する目標を立て、アルコール健康障害対策に取り組んでいる。

会社×健保 コラボでの取り組み

AUDIT実施による従業員のアルコールリテラシーの向上

従業員に対し、自身の飲酒習慣に問題がないかどうか、年に1回 AUDITを実施している。AUDIT実施後のフィードバックは、点数に準じて4種類から情報提供する仕様である。判定において点数が高くても、「依存症」という言葉は使わないよう工夫した。全従業員を対象とし任意回答での実施だが、回答率は年々上昇しており、従業員の関心が高いことを実感している。



重要ポイント！ AUDIT点数の判定

点数が高くても「依存症」という言葉は使わず「とても危険」と表現。否認を強めないよう、配慮している。

アルコールリテラシー向上のための社内発信

適正飲酒の啓発や、AUDITの回答率の向上のために、社内メールや掲示を活用して情報発信を行っている。23年11月のアルコール関連問題啓発週間には女性トイレの扉など目に付くところに飲酒のリスクを啓発するポスターを掲示し、社内からの反響も大きい。

AUDITの社内告知メール



AUDITの社内掲示ポスター



社内での飲酒文化にメス

社内の会議室等で行われてきた納会や歓送迎会での飲酒を禁止(2022年4月～)

職場巡視によるチェック

労働安全衛生の管理上、職場巡視を実施しており、冷蔵庫内を含め、労働環境が適切に保たれているか産業医が確認を行っている。

新入社員研修や個別面談時に産業保健職が適正飲酒を啓発

新入社員研修や、産業保健職との個別面談(入社3年目までは毎年実施/全国の総局記者は年1回実施)の際、適正飲酒の啓発や、飲酒と運転に関する情報提供を実施している。新入社員研修では、アルコールパッチテスト(24年度からは体質検査キット)を実施している。

産業保健スタッフの研修

個別支援のため、ブリーフ・インターベンション&HAPPYプログラム研修を受講済みである。

好事例ポイント

- 👍 健康保険組合と密に連携したコラボヘルスとして健康経営を実践
- 👍 健康経営推進をきっかけに適正飲酒に会社として取り組む
- 👍 AUDIT実施を通じて全従業員のアルコールリテラシーの向上

調査協力者

朝日新聞東京本社	管理本部(労務部・健康管理)	産業医	伊東明雅先生
朝日新聞東京本社	管理本部(労務部)		柿本憲助さん
朝日新聞健康保険組合	健康相談室	保健師	西畠文江さん

事例 2

健康経営®とコラボヘルス事業を基盤に 関係者間連携でアルコール対策を推進 (小野薬品工業株式会社)

【会社概要】

本社所在地：大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号
業 種：製造業(医薬品の研究・開発・販売)
創 業：享保2年(1717年)
従業員数：3,381名(単体)・3,761名(連結)
産業保健：産業医19名(非常勤嘱託)、保健師3名、
スタッフ その他(衛生管理者等)20名



【要 約】

小野薬品工業株式会社では、健康経営を基盤に、会社・健保組合・産業保健スタッフ等が、コラボヘルス事業として連携しながら社員の健康を管理している。新型コロナウイルス感染拡大を機に全社で働き方改革が急速に進み、在宅と出社のハイブリット勤務やスーパーフレックス制度などの柔軟な働き方が実現した一方、コロナ禍で外出や気分転換の機会が減少した一部の社員に、多量飲酒の課題が生じた。そこで、飲酒習慣改善に向けてリテラシーを高める健康教育を実施し、関係者と連携してアルコール対策を進めた結果、リスクある飲酒習慣(毎日2合以上)は改善傾向にある。

全社員に対するアルコール健康障害対策

経営層の理解と、人事、保健師を介した 健康情報の発信

健康経営のもと、経営層もコロナ禍におけるアルコール健康障害に課題意識を持ち、全社でアルコール対策を実施した。

社内の実態調査を行い、リーフレットを作成し、ポスター掲示と社内イントラネットを活用して全社員に健康情報として発信した。

健康情報には、飲酒と健康、多量飲酒のデータ、AUDIT(アルコール使用障害テスト)のセルフチェック、依存症や相談先等を掲載した。



飲酒に関する研修会の実施

大阪府東警察署 交通課に講師派遣を依頼し、飲酒に関する研修として交通講話を実施した。その録画動画を全社員に配信し、営業車を運転する者(営業部門)は受講を必須とした。

営業車の乗車前後にアルコールチェックを徹底

法令施行前に、就業開始・終了時のアルコールチェックと声色確認を営業職全員に義務付けた。



会社×健保 コラボヘルスでの取り組み

定期健康診断 ≫ 特定保健指導および事後措置面談

【特定保健指導】

健康保険組合を中心に、外部サービスを活用して特定保健指導を実施している。検査値や面談の結果から多量飲酒等による健康リスクが強く疑われる社員に対して、個人情報の取扱いに留意した上で連絡をいただくことがある。その際には、コラボヘルスを基盤に健保組合が人事と連携し、就業環境を整備して飲酒習慣や体調の管理を支援している。

【事後措置面談】

定期健康診断の結果からリスクの高い社員に対して、産業医面談で受診勧奨や事後措置を進めている。その後は保健師を中心に、保健指導の実施や、個人情報に配慮しながら人事や事業場の関係者等と連携を図り、対象社員の職場環境や健康管理をサポートしている。



重要ポイント！
多量飲酒など高リスク者の支援には、
関係者の情報共有と連携が大切！

健康年齢[®]を活用したヘルスリテラシーの向上

毎年健康診断の結果から算出される健康年齢を、社員に通知している。前回比較と共に健康年齢や健診結果に基づく生活習慣改善に向けたアドバイスが掲載されており、飲酒習慣を含めた生活習慣の改善を促すきっかけとなっている。

多量飲酒の防止だけでなく、製薬業に従事する社員としてヘルスリテラシーを高めていけるよう働きかけている。



各地の安全衛生委員会とコラボレーションした健康イベントの開催

事業所別の健康年齢と健康課題を通知し、改善に向けて健康イベントを開催している。健保組合と人事、保健師が連携して組織の健康づくりを支援している。



好 事 例 ポ イ ン ト

- 👍 健康経営におけるアルコール健康障害の課題認識と健康情報の発信
- 👍 高リスク者支援における、個人情報保護を原則とした関係者間の連携
- 👍 健康年齢を活用した、個々のヘルスリテラシー向上と組織の健康づくり

「健康経営[®]」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。
「健康年齢[®]」は、株式会社JMDCの登録商標です。

調査協力者

小野薬品工業株式会社 人事管理部 健康推進課

事例 3

健康管理室と多職種および専門医療機関との連携で取り組むアルコール対策 (KMバイオロジクス株式会社)

【会社概要】

本社所在地：熊本市北区大窪一丁目6番1号
業種：製造業（ヒト用ワクチン、血漿分画製剤の研究・開発・製造・供給、動物用ワクチンの製造、新生児マスキング）
従業員数：2015名（2023年12月地点）
産業保健スタッフ：産業医4名、保健師2名、看護師2名、その他（衛生管理者等）12名



【要約】

KMバイオロジクス株式会社では、従業員本人からアルコールに問題があると相談されることは少なく、メンタルヘルス不調など別の問題を訴える中で発覚することが多い。アルコール依存症が疑われる者には、依存症専門の臨床心理士と産業医との面談を定期的実施し、受診勧奨をしている。また、治療者に対しては、専門医療機関と連携し、治療が継続できるよう支援を行っている。

会社全体で、定期健康診断での事後対応確認と事後面談、中途入社者に対する個別面談、新入社員に対する健康教育、全従業員に対する啓発などアルコール対策に幅広く取り組んでいる。

会社での取り組み

アルコール依存症の治療が必要な従業員への支援

抑うつや不眠で面談を希望され、眠れないことから寝酒や問題飲酒、アルコール依存症が発覚する場合が多い。そこでアルコール依存症が疑われる場合は、産業医面談に併せて、外部の依存症専門の臨床心理士との面談を継続的に実施し、受診勧奨をしている。治療者に対しては、専門医療機関と連携し、健康管理室が治療継続をサポートしている。

～事例紹介～

Aさん
女性

職場環境のストレスから異動を希望し、産業医と面談。メンタルヘルスの悪化だけでなく、アルコール依存症が疑われる問題飲酒が発覚。本人に治療の必要性を説明し、保健師がアルコール依存症の専門医療機関を予約し、同行受診。受診後は健康管理室で服薬してもらい、主治医やカウンセラーと連携しながら治療を継続した。現在は依存症を克服し、元気に就労している。



Bさん
男性

精神面の調子が悪いとの訴えがあり、面談。中性脂肪高値、栄養状態不良だけでなく、問題飲酒があり、依存症の傾向であった。外部の依存症専門の臨床心理士と産業医との面談を定期的実施し、受診勧奨を続けている。



重要ポイント！ 治療者に対する仕事と治療の両立支援

仕事上での関係であり、職場で介入できる範囲は限られる。専門医療機関と連携し、情報を共有しながら治療をフォローすることが重要。

定期健康診断後のフォローアップ

従業員に対する健診事後対応確認と体調確認（面談）

1. 健診事後対応確認対象者（要精密検査判定・要治療判定者）へは、医療機関受診を勧奨し、受診結果を報告依頼
2. 体調確認が必要な従業員へは、産業医または保健師による面談を実施
3. 定期的な体調確認が必要な場合は、継続的に面談を実施

従業員に対する各部署の協力

1. 健康管理室から全管理職に向け、健診後の事後措置の流れを通達
2. 管理職（所属長）は、対象者（健診事後対応確認対象者・面談対象者）を把握（項目は伏せて対象者名だけ通知）
3. 未報告者・未面談者に対する催促は、所属長にも案内

中途入社者に対する個別面談

保健師が中途入社者全員に対して面談を実施し、体調や飲酒含めた生活習慣を確認し、把握している。気になる者に対しては、面談を実施している。

新入社員に対する健康教育

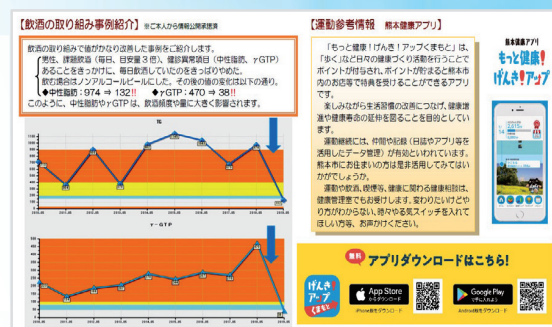
新入社員で有所見者は多くないが、多量に飲酒する者がみられる。集団での健康教育の機会を設け、急性アルコール中毒の予防、将来的な肥満予防に努めている。

相談窓口の設置

メンタルヘルス関連や依存症など、常勤の産業医や保健師、外部カウンセラーを設置しており、相談しやすい体制を整えている。

全従業員に対する啓発、情報提供

- ・健康管理室から健康ニュースの発信
- ・衛生月間や食育月間に合わせた講演会や研修会を実施
- ・社用車にのる従業員は、乗車前後に呼気アルコールチェックを実施
- ・アルコールハラスメントを含むハラスメント研修をe-ラーニングにて全員受講



好事例ポイント

- 👍 アルコール依存症を疑う、治療が必要な従業員に対して、職場と外部の依存症専門の臨床心理士や専門医療機関が連携した個別支援
- 👍 健康状態の確認や支援が必要な従業員に対する継続的に面談を実施
- 👍 全従業員に対して、飲酒習慣改善に関する情報提供、アルコールハラスメントなどの啓発を幅広く実施

調査協力者

KMバイオロジクス株式会社 本社健康管理室 産業医 毛井順子先生
保健師 宮田真理子さん

事例 4

健康管理センターと健康保険組合が連携して従業員の健康管理 (ブラザー工業株式会社)

【会社概要】

本社所在地：愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15番1号
業種：製造業(プリンター、複合機、工作機器、家庭用ミシンなど)
従業員数：ブラザー工業(単独)3,890人 (2023年3月31日現在)

ブラザー工業株式会社 人事部健康管理センター
産業保健スタッフ：産業医(常勤)5名、保健師8名
ブラザー健康保険組合 保健推進センター
産業保健スタッフ：保健師4名



【要約】

ブラザー工業株式会社では、従業員の約2割が毎日飲酒をしており、特に50歳代男性は飲酒量が多く、肝機能異常に該当する者が多いことがわかっている。

定期健康診断後は、会社独自の基準レベル(事後措置判定区分)に準じて階層化を行い、保健師または産業医による事後措置面談を実施している。多量飲酒による影響が考えられる場合は、面談で飲酒習慣について必ず触れている。また、アルコール依存症が疑われる従業員には、保健師および産業医が本人と相談しながら受診に繋げている。

会社での取り組み

定期健康診断後 >> 事後措置面談

会社独自の基準レベル(事後措置判定区分)に準じて階層化を行い、特定保健指導および事後措置面談を実施している。レベルに準じて、保健師または産業医が面談を行い、個々に健診結果の年次推移グラフを用いた結果の説明および生活習慣改善に関わる保健指導をしている。多量飲酒による影響が考えられる場合や、職場上司から相談がある場合は、面談で飲酒習慣について必ず触れている。

ブラザー工業独自の判定区分から階層化判定 と保健指導対象者の選定

検査の数値や項目数に応じて、重症度の階層化



Lv 1	軽度の疾病で生活習慣の改善を強化すべきもの 対象者が自らの健康課題に気づき、自らの意思による行動変容によって健康課題を改善できるよう、必要な情報の提示と助言をする。 少なくとも年1回はフォローするが、継続的な関わりをしていくことが望ましい。
Lv 2	中等度の疾病で薬物治療と生活指導が必要なもの 数ヵ月後にはそこで得られた健康課題が実行されているのか確認や追加指導を行い、確実に健康リスクを下げていく関わりをする。 少なくとも年2回はフォローを行う必要があり、継続的な関わりを行っていくことが望ましい。
Lv 3	重度の疾病もしくは疾病の可能性を疑うもの 就業制限の検討や必要に応じたフォローが必要 主治医や会社と連携し、治療と仕事の両立ができるような働きかけをする。

保健師または産業医が面談

重症度に応じて、受診勧奨や専門医を紹介。

飲酒が原因である場合は必ず触れる。

減酒が必要な場合はできる範囲の目標を提案。



疾病を強く疑う場合やアルコール依存症が疑われる場合は、保健師と産業医が従業員と面談し、本人と相談した上で専門医療機関に繋げている。ブラザー記念病院だけでなく、近隣医療機関や依存症専門病院とも連携し、受診に繋がる体制を整えている。

飲酒習慣のヒアリング、
治療の必要性の説明
→本人へ状況説明と相談、
本人へ気づきの促し

【検査が必要な場合】
→ プラザー記念病院等での検査
【何らかの問題がある場合】
→ 産業医が紹介状を作成し、
近隣医療機関・専門医療機関
への受診に繋げる

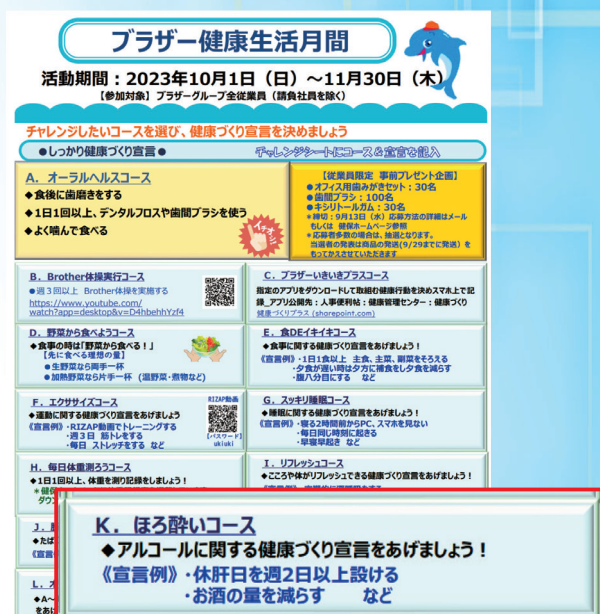
本人・上司との面談を行い、治療状況の確認。
その後も一定期間、継続面談を実施。

新入社員と30歳の従業員全員に対して、健康診断後に保健師による面談を実施している。健診結果より、肝機能異常がある場合や不適切な飲酒習慣がある人は、飲酒について必ず触れる。



肝機能の数値が上がっていますが、
お酒を飲み過ぎていませんか？
新入社員：飲み会が原因？
30代以上：日々の飲酒量は？

6月・10～11月をブラザー健康生活月間として、健康保険組合とコラボし、グループ全体の健康づくり活動を推進。そのほか、様々な機会に情報提供を実施している。



- 👍 定期健康診断時の問診票および結果から、アルコール健康障害リスクが高い多量飲酒者を抽出し、レベルに準じた保健指導
- 👍 新入社員と中堅以上社員とでは飲酒習慣の違いに考慮した対応
- 👍 会社、健保と専門医療機関との連携体制

ブラザー工業株式会社	健康管理センター	保健師	曽我紀子さん
ブラザー健康保険組合	保健推進センター	保健師	久米智美さん

